

ARMA International 東京支部のご紹介

柿崎 康男

ARMA International 東京支部

ARMA International は、法案及び規則への助言・勧告を含めその活動の範囲及び内容が、記録と情報を取り巻く環境の変化に伴い大きく変貌しており、ARMA International 東京支部のご紹介をする前に、最新の活動状況を通じてその概要を紹介します。

ARMA International (Association of Records Managers and Administrators) は、記録・情報 紙及び電子も含め の管理に関する権威ある非営利の団体である。ARMA は、米国国立公文書館内に記録管理部が1949年に設けられた後の6年後の1956年に設立され、現在11000人を超える会員は、世界30数カ国の官公庁（中央及び地方）、公益、各種の製造業、金融サービス（銀行・証券・保険など）、法律事務所、医療・保健サービスなどを含む多様な業界・業種で仕事をするレコード・マネジャー、アーキビスト、企業ライブラリアン、イメージングの専門家、法律・弁護士、IT マネジャー、コンサルタント、教育関係者などで構成されている。

ビジョン

ARMA は、記録・情報の管理に関し、世界的に優れた権威ある団体・提唱者として、また記録・情報管理の専門家にとって、なくてはならないリソー

柿崎康男（かきざき やすお）：(株)コダック在籍期間中、教育、製品開発、市場開拓、企画、役員を担当。定年後、日本画像情報マネジメント協会の専務理事を務めた後、2006年 AMRA 東京支部の会長に就任、記録管理の啓発と普及活動に専心。

スとして評価されること。

使命

ARMA International の使命は、専門家が組織的運用及統治のクリティカルな要素として情報を管理できるリソース、教育を提供し、そして普及・啓蒙を強力に支援。

価値

会員第一主義

透明な決定・行動

情報共有の倫理及び文化を維持

優れた教育内容のプログラム化

多様性と包括性に気配り

目標

情報ガバナンス基準及びベスト・プラクティスの設定をし、専門的能力を高め、会員へ価値を提供
(2009年1月改定)

ARMA International の主な事業

機関誌及びワイヤ・ニュース

優れた内容の業界誌として賞を受けた機関誌 Information Management 「IM」は、装いも新たに年6回発行され、世界の法・規制の動き、標準化、ベストプラクティス、技術・市場動向など旬の話題を取上げ、また最新の世界のニュースが月に2回速報としてホームページに掲載。機関誌「IM」は2009年5/6月号から電子版でも配布を開始。



ARMA2008年ラスベガス大会の展示会

年次大会・展示会の開催

毎年秋に北米の主要都市で開催される年次大会は、記録・情報管理の分野に関連した最新の技術及び製品の展示と共に RIM 専門家にとっての教育イベントでもあり、今日的テーマのセッション（ワークショップも含め）を80前後予定。

資格認定制度（CRM）

関連団体 ICRM に対し、CRM（認定レコードマネジャー）の取得に必要な基本テキストの発行及び年次大会での受験対策セミナーの実施などで協力。

記録・情報管理（RIM）関連の刊行物

RIM プログラムの設計、RIM の基本、標準化・ガイドライン、電子記録関連、法律関連、リテンション、事業継続、そして金融、官公庁など分野別の刊行物を本、PDF、ビデオ、CD/DVD 版で出版。

最新の刊行物及びニュースリリース

「RIM のコア・コンピテンシー」

RIM の導入を成功させるために必要な人材の知識及び具現化するためのスキルを5つの行動領域と4レベルに分けて、必要な項目を RIM

の実践者の経験と知識をベースに集大成したもの。人材の採用、育成、評価に利用。

「記録・情報管理の職務記述」

RIM のコア・コンピテンシーに基づき、記録・情報管理の職務に関わる人のエントリーレベルから最高責任者（CIO）に至る職務記述。

ARMA、GARPsm を発表

この4月 ARMA は、官・民を問わず組織が、健全な記録・情報管理プログラムを構築する際の基準とな

る8つの原則を含む「一般的に認められた記録維持・管理の原則（GARPsm）」を発表。8つの原則には、説明責任/完全性/保護/コンプライアンス/可用性/保有/処分/透明性の項目が含まれる。

ARMA '09 第54回オーランド年次大会及び展示の案内

本年の年次大会・展示会は、10月15～18日（木～土）の4日間フロリダ州オーランドのワールドセンター・マリオットで開催。

記録・情報管理分野における主要イベントは、世界中から4000人以上の専門家の出席を予想。記録・情報の管理に責任を持つ、大会の教育及び展示からメリットを得る関係者とは：

- 記録・情報管理の専門家
- 法務責任者
- 保管管理担当者
- RIM 及び IT コンサルタント
- CIO 及び IT マネジャー など

特に、組織における健全な記録・情報管理は、RIM、IT、法務、そしてコンプライアンス関係者の協力的な努力が必要。

2009年大会でも、Government Day（NARA 主催の行政府の日）が計画されている。

詳細は ARMA のホームページを参照：
(www.arma.org/conference/2009/)

関連団体との連携の強化例

新しい NARA 長官の選考に関し、米国アーキビスト協会、州アーキビスト協議会、政府アーカイブス・記録管理全米協会など関連10団体と連携した申し入れ。

AIIM と共同の技術報告 (TR) 「ANSI/AIIM/ARMA TR48-2004 電子文書管理ソフトと電子記録管理ソフトの統合フレームワーク」

市場調査

IDC、Forrester、Cohasset などが実施する市場調査の分析

記録管理のポータルを目指す ARMA 東京支部の活動

本年 9 月で設立20年を迎える ARMA 東京支部は、記録管理の必要性の啓蒙活動の一環として設立以来継続して実施してきた定例会 (セミナー、見学会など) などの行事は、この 5 月の会長来日講演会で90回を超える。また、数年前までは北米の先進的事例 (ベストプラクティス) の見学を年次大会開催時期に合わせて実施し、記録管理の普及・啓蒙に微力ながら貢献をしてきた。

しかし、記録と情報の管理に利用される電子技術の台頭・進化と相伴って、電子技術から得られる多くのメリットとともに予想外の代償を払うデメリットも浮上してきた。火に油を注いだのは世界中を驚嘆させたエンロン事件を初めとした不祥事が、厳しい法律の制定に拍車をかけた。その結果、皮肉なことに証拠としての記録と情報を適切に管理することの重要性が組織 (官・民) の首脳陣の認識を高めることになった (Backroom から Boardroom へ)。また 9/11 事件も記録管理システムに事業継続という観点で大きな影響を与えた。

ガバナンス (G)、リスク (R)、コンプライアンス (C)、更に情報の開示・公開、説明責任、

透明性といった社会 (国民及び納税者) の要求が世界共通に高まってきた。これらに対応するには、しっかりした記録と情報の管理が不可欠であることが再認識され、従来の慣行が大きく見直されている。

わが国の場合は、年金記録の管理の不備が如実に問題点を浮き彫りにした。

奇しくも、公文書の見直し及び公文書管理法の検討が始まり、また日本版 SOX 法も制定された。こうした内外の状況の変化と共に、支部会員より本部から送られてくる IM ジャーナルの論文・記事の翻訳を強く希望する意見が寄せられ、いろいろ検討した結果、3 年前に「RIM ジャーナル」誌として発刊することになった。

機関紙「RIM ジャーナル」の役割

東京支部としては、RIM ジャーナルを内外の重要且つ最新の情報を伝達する媒体と位置づけ、記録管理の視点から、次に挙げるようなテーマを取上げることにしている。

透明性、説明責任、情報公開、個人情報に対する社会的要求の変化

上記及び不祥事に端を発する法律・規制の変化・動向

電子技術に関連する動向：電子メール、長期保存、タクソノミ/検索能力、データ保全、ソフトウェア (EDM/ERM)、自動化能力、バックアップ、標準化、Web2.0 など

訴訟と電子証拠開示への対応

法令順守とベストプラクティス

アーカイブス

市場調査/分析報告

上記に関する各国の取り組み (協働プロジェクトを含む)

上記に関する国内の動向

定例会

ARMA 会長来日記念講演会 (21年 5 月)

「米国 SOX 法の真実」、「内部統制 ルール

から運用へ」

第90回定例会（21年2月）「IT化に対応した
文書管理」

第89回（20年10月）「ドキュメントをめぐる
国際標準化動向」

第88回（20年7月）「記録管理の最新動向と
課題」

記録管理学会・ARMA 東京支部・全史料協
特別講演会（20年4月）

「文書管理法の制定に向けて」

今回の公文書管理法の審議にあたり、記録管理
の分野における先進諸国の実情を参考に、世界第
2の経済大国に相応しい記録管理への取り組みに
関する提言を行った。

この一年間に開催した定例会及び関連団体との
合同特別講演会では関係者間で話題のテーマを
取上げ、記録管理の普及・啓蒙に貢献した。今後

もこうした共通のテーマの講演会並びにテーマの
研究・検討に関係団体と協力して取り組んでいく。

新しい出版計画

ARMA 東京支部は、{RIMのコア・コンピテ
ンシー}の日本語版をこの7月に発刊する。人材
の育成・評価、必要な能力の開発に役立つものと
期待する。

強まる社会的要求、ダイナミックに変化を続け
る法・規制要求事項に適合する健全な記録管理プ
ログラムの構築のベンチマーク、又は基準として
利用するために、近々、GARPSmの8原則も日
本語化する計画である。

ARMA 東京支部に関する問い合わせ先：

東京都千代田区神田司町2-2

TEL：03 3258 8677 FAX：03 3258 8670

www.arma-tokyo.org



東京支部定例会